クリスマスメッセージ

世界の歴史を変えた夜

聖書のことば

1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。
2 これは、キリニウスがシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。
3 人々はみな登録のために、それぞれ自分の町に帰って行った。
4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、
ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。
5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアとともに登録するためであった。
6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、
7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。
宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。
8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。
9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、
彼らは非常に恐れた。
10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。
私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。
11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。
この方こそ主キリストです。
12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。
それが、あなたがたのためのしるしです。」
13 すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、
神を賛美した。
14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。
地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」
15 御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。
「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を
見届けて来よう。」
16 そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを
捜し当てた。
17 それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを
知らせた。
18 聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた。
19 しかしマリアは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。
20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、
神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

ルカの福音書　２章１～20節

世界の歴史を変えた夜

1.「125B.C.と鋳造の年が刻まれた古いコインがオークションに出品されたが買おうという人は一人もいなかった。なぜか。」

2. **世界の暦**
   - 日本： 平成30年（現天皇が即位してから）
   - イスラム暦：1439年（ムハンマドがメッカからメディナに移住してから）
   - ユダヤ暦：5778年（神の天地創造から）
   - 仏暦：2562年（釈迦の入滅から）
   - 皇紀：2678年（神武天皇の即位から）
   - 主体暦：107年（金日成が生まれてから）

世界に共通する暦は以下の２つのみ
① B.C.（Before Christ）
A.D.(Anno Domini)
② B.C.E.(Before Common Era)
C.E.(Common Era)
大工の長男がローマ帝国領内の片田舎に生まれた日が世界史を二分！

3. **歴史の事実として**（ルカは歴史家）
   - 仏典、コーラン（クルアーン）との比較
   - 5W1H（When, Who, Where, What, Why, How）
   - キリストの十字架からまだ20年ほど（執筆年代）

4. 思いがけない方法による神の御子（メシア）の誕生
   - 婚約者が身重に（スキャンダル）。屋外での出産（初産）
   - 天（まばゆい光と無数の天使）、夜のベツレヘム（焚き火）、パラレルワールド
   - 羊飼いたちへの啓示（神殿で献げる犠牲の羊）（死者をくるむ「布」）
   - マリアとヨセフはこの光景を見ていない。羊飼いの話を信じるか、信じないか。

あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、ことばに尽くせない、栄えに満ちた喜びに躍っています。あなたがたが、信仰の結果であるたましいの救いを得ているからです。（Ｉペテロ 1:8, 9）

5. 天使のメッセージ
   - 「今日」　B.C.3年9月11日（？）
   - 「ダビデの町（＝ベツレヘム）で」
     （7百年前の預言の成就、ミカ 5:2）
   - 「あなたがたのために」（求める人は拒まれない）　天国の門
   - 「救い主がお生まれになりました」 Cf. 目標、友、メンター（良き指導者）
     日産がゴーン氏の負債を肩代わり？
   - 「この方こそキリストです」 Cf. バラバ、バル・コホバ・・・
     ほかに探さなくてよい　Cf.「良い真珠（複数形）を探していた商人」

ひとりの孤独な生涯

彼は、世に知られぬ小さな村のユダヤの人の家に生まれた。
母親は、貧しい田舎の人であった。
彼が育ったところも、世に知られぬ別の小さな村であった。
彼は30才になるまで大工として働いた。
それから、旅から旅の説教者として3年を過ごした。
一冊の本も書かず、自分の事務所も持たず、
自分の家も持っていなかった。
彼は、自分の生まれた村から200マイル以上出たことはなく、
偉人と言われる有名人にはつきものの「業績」を残したこともなかった。
彼は、人に見せる紹介状を持たず、
自分を見てもらうことがただひとつの頼りであった。
彼は、旅をしてまわり、病人をいやし、足なえを歩かせ、
盲人の目を開き、神の愛を説いた。

ほどなく、この世の権力者たちは彼に敵対しはじめ、
世間もそれに同調した。
彼の友人たちは、みな逃げ去った。
彼は裏切られ、敵の手に渡され、裁判にかけられ、
ののしられ、唾をかけられ、殴られ、引きずり回された。
彼は十字架に釘づけにされ、二人の犯罪人の間に、その十字架は立てられた。
彼がまさに死につつある時、
処刑者たちは彼の地上における唯一の財産、
すなわち彼の上着をくじで引いていた。
彼が死ぬと、その死体は十字架から下ろされ、
借り物の墓に横たえられた。
ある友人からの、せめてものはなむけであった。

長い19の世紀が過ぎていった。
今日、彼は、人間の歴史の中心であり、前進する人類の先頭に立っている。
「かつて進軍したすべての軍隊と、かつて組織されたすべての海軍、
かつて開催されたすべての議会と、かつて権力を振るいながら統治した
すべての王たちの影響力のすべてを合わせて一つにしても、
類の生活に与えた影響、人々のいのちに与えた影響の偉大さにおいて、
あの『ひとりの孤独な生涯』には到底及びもつかない」
言っても決して誤りではないだろう。

（ジェイムズ・アラン・フランシス）